

道場「柔道」の発展を期す

# 黒帯 白帯

〔投稿欄〕

## 日本マスターズ柔道協会 盛大に発足

野口 宏 水

5月10日(金)午後六時より、千代田区麹町のグラウンドアーク半蔵門で新生日本マスターズ柔道協会の発足記念パーティーを開催いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず130名以上の柔道・武道愛好家が駆けつけ下さり、盛大に発足を祝して激励していただきました。

就中、講道館柔道創立120周年記念祝賀会を終えられたばかりの嘉納行光講道館館長・全日本柔道連盟会長を始めとして、日本柔道界の重鎮の方々、また大病を見事に克服されて不死鳥の如く生還された生涯武道愛好家橋本龍太郎元内閣総理大臣にもご出席賜り、また

日本を代表する政財官界その他それぞれのお仕事お立場でご多忙を極めておられる各リーダーの方々のご来賓を賜り、新発足したばかりの当協会役員一同は大いなる榮譽に思ふと同時に感激一入、大きな自信と勇気を与えられました。

つまり、柔道を学んでこれまで多くの素晴らしい師、先輩、同輩、後輩、同好の士との知遇を得、種々の教え―人生の生き方、人としての道―を受けたことが今日の設立に至ったこと、例えば慶應柔道部昭和十七年卒の先輩児玉一男さんは三十数年前から海外出張の際には必ず柔道衣を携えてその地の柔道場を

道の総本山講道館で開催して欲しいとの熱烈な要望を受け、嘉納館長に上申しましたところ、柔道の愛好家が世界より集まるならば、柔道の更なる発展普及に役立つならばと、ご快諾を頂戴し、その受け皿として日本マスターズ柔道協会の設立に至ったこと、そして

結成に漕ぎつけたものの未だ呱呱の声を挙げたばかり、構成の役員は今まで世界マスターズ大会に自ら参加して生涯柔道に対する思い入れは人後に落ちないものの、協会の経営、また八〇〇人とも一、〇〇〇人とも見られる国際大会の運営には素人の駆け出し集団などで、会場の皆様のご指導、ご支援をお願いして挨拶いたしました。

初めに嘉納講道館長・全柔連会長にご祝辞を賜り、今年の全国柔道高段者大会は講道館創立百二十周年記念祝賀会もあって一千五百人の多くの参加者を得たが、来年のマスターズ大会はいわばこの国際版ともいうべき生涯柔道の世界的拡がりには誠に心強く、講道館・全柔連ともでき得る限り力添えをするが、特に国際大会は大変な苦勞があるので日本マスターズ協会はみんなで力を合わせて成功することを心から祈ります、と激励のお言葉を頂戴いたしました。

次いで、世界を相手の国家外交の場で武士の魂というべき愛用の竹刀を必ず携行される生涯武道愛好家橋本元総理は、国の内外を震撼させた大病から丁度七十日ながら駆けつけて戴き激励して戴いたのには真に感激しました。

橋本元総理は道場を隣り合わせた慶應体育会の同窓として、特に九十九年三月、ネパール国王より同国の保健衛生の向上、観光開発、両国友好関係への貢献により外国人最高の榮譽とされる「グルカ族の強い右腕」称号勲章を授与された時、同時に同国スルティ王女が初段に昇段することになったので、日本傳講道館柔道初段の段位証書が欲しいとの同国王・王家一族の強つての願いで、講道館より証書を発行して貰つて授与したとの秘話に加えて、柔道の国際的普及は素晴らしく、その柔道精神を体得されたブーチン大統領、キリエンコ首相の普く知られた逸話を披露されてお祝いの言葉とされました。

余談ですが、私も当時慶應柔道部監督だった清水副会長と、その昇段授与式に参列の榮を得ましたが、王女昇段記念第一回ネパール大会が開催され、清水副会長と私は「古式の形」を演じました。橋本元総理は剣道の模範

訪れ稽古をし、今シカゴだ、と日本の明け方国際電話で起こされ、柔道交流をされて凄いな、羨ましいなと思つたこと、また東大の大先輩で本年九十寿を迎えられた三善信一さんは海外では日本の会社の肩書は通用しないが、講道館六段の黒帯は世界中どこでも通用するので外国に行く時は黒帯だけは持つて出かけることにしているんだ、といわれて感動したことでした。このような方々に接して自分もそうありたいと願つて柔道を続けていましたところ、九十七年アメリカ在住の慶應昭和三十年卒の宮崎剛先輩がパンアメリカンマスターズ大会で六十五歳以上の部で金メダルを獲られたと聞き、アメリカ人以外でも参加できる大会があればお教え下さいとお願ひしていたところ、九十八年柔道愛好家を中心にカナダで世界マスターズ柔道協会が設立されたのでアプローチしたらと勧められ、九十九年世界マスターズ大会がカナダのウェランド、第二回同じくカナダのシドニー、第三回昨年在アメリカ・フェニックスで開かれ参加して参りました。

第二回大会時、世界マスターズ柔道連盟規約作成会議の時、二〇〇三年第五回大会を世界柔道愛好家憧れの柔道発祥の地日本の、柔



協会発足記念パーティーでの一コマ

演武を披露され、文字通り天下を制した文武両道、王者の剣に一、〇〇〇人を越す観衆は魅入り万雷の拍手を贈つたものであります。

後日譚として、カトマンズ市と姉妹都市提携を結んでいる松本市が中心となって立派な柔剣道武道館が建立されて、その披露に一月

十五日参列された旨のお話もありました。

次に登壇された竹内善徳アジア柔道会長・

講道館国際部長は、柔道の心身の健康を高めることにより特に世界の人々との親交に果す役割は目覚ましいとして、先般訪問されたばかりのエジプトでムバラク大統領のお孫さんと乱取をして、最後に大内刈で派手に？一本負けしたときは我が子の一本勝に父君が大喜びで拍手をされた由、その子の父君の喜びもさることながら、その子は生涯日本のチャンピオンを投げたことを記憶しているだろうと、柔道を通しての時代、世代、国境を超えた人と人との交流の大事さを説かれました。更に、司会の伊藤久雄専務理事の「一ツ橋大学先輩・キャプテンだった高橋宏郵船航空会長が立ち、同期柔友石原慎太郎都知事や奥田碩日本経団連会長との柔道を通しての交友を面白く話され、特に日本の国際評価が低く他国よりバカにされているやに思うのは、日本人が武道精神を忘れていないからではないか、もう一度武士道精神に立ち返り日本の文化、日本人の心の気高さを後進に教え範を示し、そして日本人の自信を取り戻そうではないかと呼びかけられました。因みに日本マスターズは第一回からの大会参加は、この高橋さんの

郵船トラベルにお世話していただいております。

協会役員を清水正敬副会長が明るく披露。郵政省を退官され七十五歳、今ではマスターズ世界大会で自信满满々審判を務められる家亀岩男相談役、東大医学部出身医学博士で今年は試合と形で金メダルを狙う安河内浩相談役、……と多士済々、柔道自主参加の役員を紹介（私もガンで切腹して柔道と酒で生還したとの嬉しい？紹介を受く）、開会より一時間近くの間、大病後の橋本元総理を始め、ガン闘病中の前田拓雄副会長を含めて誰一人として座ることなく立ち尽くしていたことに私は恐縮に思うと同時に、流石武道家の集いと感心いたしました。

祝宴は次の錚々たる登壇者の鏡割りで始まりました。

- 関根 忍（全柔連審判委員長）
  - 赤羽 弘次（道友会副会長）
  - 岩崎 安孝（講道館総務部長）
  - 岩田 久和（全柔連事務局長）
  - 貝瀬 輝夫（講道館道場管理室長）
  - 木村 忠雄（前警視庁主席師範）
  - 木村庄之助（日本相撲協会三十代立行事）
- 私の高校後輩で後援会長を務

めています。

- 小林 次雄（都柔連広報部長）
- 坂井栄八郎（元東大教授・柔道部長）
- 佐藤 孝尚（日本マスターズ水泳協会理事）
- 田部井 真（宮崎県柔道連盟会長）
- 拓植 健司（全日本学生柔道連盟会長）
- 戸田 忠男（昭和三十七、三十九年全日本剣道選手権大会優勝者、橋本元総理の一年後輩）

内藤 昌（三田体育会会長）  
水谷 英男（三田柔友会名誉会長）  
村田 直樹（講道館図書資料部長）  
登壇者を代表して、関根忍警視庁主席師範の勇ましい歯切れの良い掛け声で鏡を割り、登壇者はそのまま壇上に残っていたいただき、会場を提供していただいた私の郷里佐賀の先輩今泉正隆元警視總監の流石、的確に選ばれたお言葉のご発声で一同漸く喉を潤しました。

第四回世界マスターズ大会は六月二十日、二十三日までイギリス北アイルランド・ロンドンデリーで開かれ、二十四名の参加者ですが、新規参加者真砂都溜夫八段、田波満雄七段、保科素七段、松本龍弥五段の紹介があり代表して八十一歳真砂八段より壮行の辞がありました。その他新規参加者には北海道より

佐藤宣統元全日本選手権出場者、香川県警より来田武警察幹部等が参加、心強い限りです。福島哲夫六段の尺八に合せての上田満六段によるサンサシグレの友情出演と第四回大会地ロンドンデリーの歌を私のカラオケなし素人受けしない名調子で彼地に思いを走らせ歌い切りました。

浅見ヴェートーヴェンI B M教育担当部長より日英両語による世界マスターズ協会会長バンヘルダー博士、テリー副会長よりの祝電、更にリズローチ事務局長よりの祝電披露があり、加えて司会より猪谷千春国際オリンピック委員、樋口公啓東京海上会長、長谷景治日本マスターズ水泳連盟専務理事よりの祝電が披露されました。宴酬、監事の清家春夫警視庁生活安全部参事官の万歳三唱で、更に理事の岩田良雄赤門柔道倶楽部の中締めで盛会裡に発足式の幕を閉じました。

お陰様で発足式は華々しく盛大に一応は終りましたが、六月の第四回ロンドンデリー大会で、世界マスターズ柔道協会の大会旗を受け取り、愈々来年六月二十六日、二十九日の世界マスターズ柔道家憧れの柔道発祥の講道館へ、嘉納師範が播かれた種が百二十年という長い年月を経て、いわば柔道の「里帰り」

の時を迎えます。柔道を通して得た素晴らしこの人間関係を、この時こそ国境、民族、言語、宗教、身分、職業等々凡ゆるものを超えて、ジュードーという世界共通言語で楽しく迎え語り合って、私共が受けた諸外国での生涯柔道を通しての草の根外交のもてなしを日本で、講道館の畳の上で最高の至福感を持って味わってほしい、それぞれの国の故郷へ帰ってもらおうべく全力を尽くしたいとお願いいたしております。読者諸賢のご支援ご助力を切にお願ひ申し上げます、発会式のご報告とさせていただきます。

以上

追伸

この発足と共に新年早々、ものすごく嬉しいことを追記させていただきます。

我が家では、長男（柔道五段）夫婦男子二人が参り近所の氏神さまに新年初詣を行い、家に戻って我が家の仏壇に手を合わせて拝み、それからトソを祝うことを常としております。今年は、昨年より近くの警察道場で柔道を始めた小三、小一の二人の孫が、仏壇に参って正座したままで、「オジイチャン、オバアチャン、お父さん、お母さん明けまして

お目出度うございます」とキチンと元気な声で挨拶しましたのには、「正に柔道の賜だ」と感動に明けた年の始めでした。

（日本マスターズ柔道協会会長）  
日本マスターズ柔道協会  
〒一五七〇〇六三  
東京都世田谷区粕谷三―三〇―一  
TEL・FAX  
〇三―三三三〇五―七三〇一  
又は〇三―三三三二六―三三三三三

